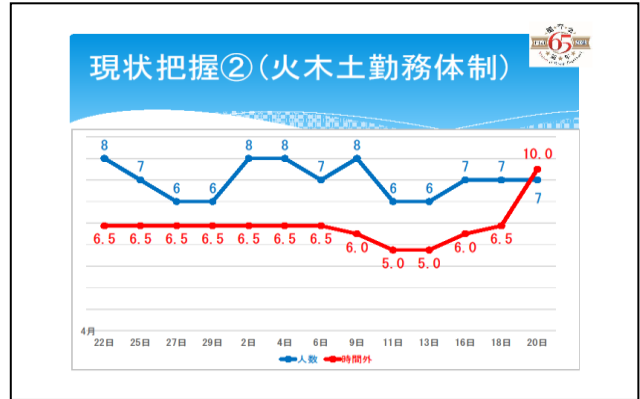
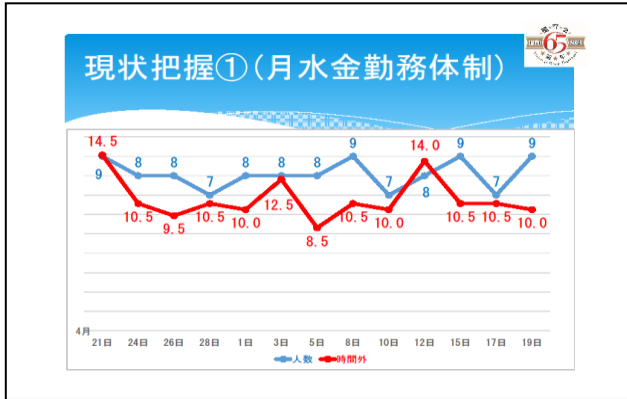


演題名	看護助手業務における配置人員の定数化について		
施設名	茅ヶ崎セントラルクリニック	発表者(職種)	おおば 大場 ひろみ (看護助手)
チーム名	茅ヶ崎Pipeline		
取り組種別	問題解決型		
分類	④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの		
改善しようとした問題課題	クール毎の患者数にほぼ変化が見られないにも関わらず、勤務人員がバラバラで統一性がない事		
改善の指標とその目標値	(指 標)勤務人員数(月水金:最少 7名、最大 9名 火木土:最少 6名、最大8名) (目標値)勤務人員数(月水金:7名 火木土:6名)		
実施した対策	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容の洗い出し ・タイムテーブルの作成 ・シーツ交換数の平準化 ・患者受持ちの担当制 ・担当シフトの明確化・勤務表表示 		
改善指標の対策実施前後の変化	(実施前)月水金:平均勤務者数8.1名 火木土:平均勤務者数7.0名 (実施後)月水金:平均勤務者数7.5名 火木土:平均勤務者数6.0名		
歯止めと標準化	<ul style="list-style-type: none"> ・看護助手の人員定数は8名 ・月水金の勤務者数は7名、火木土の勤務者数は6名 ・ベットメイキング数は1日8ベッド ・患者受持ち制度の導入 ・担当シフトの平準化 		
活動の種類 ※複数選択可	③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 細川 康子 看護師
活動の場 ※複数選択可	②支援部門		2 小田島 英明 臨床工学技士
活動期間	平成 29 年 4 月 ~ 11 月		3 三田 泉紀 看護助手
リーダー名 (職種)	三田 泉紀 (看護助手)		4 大場 ひろみ 看護助手
活動回数	14 回		5 前田 朋子 看護助手
			6 伊東 砂織 看護助手
		7 藤本 恵津子 看護助手	
		8 多田 真由美 看護助手	
		9 和田 奈津子 看護助手	
		10 中川 亜湖 事務	

【現状把握】

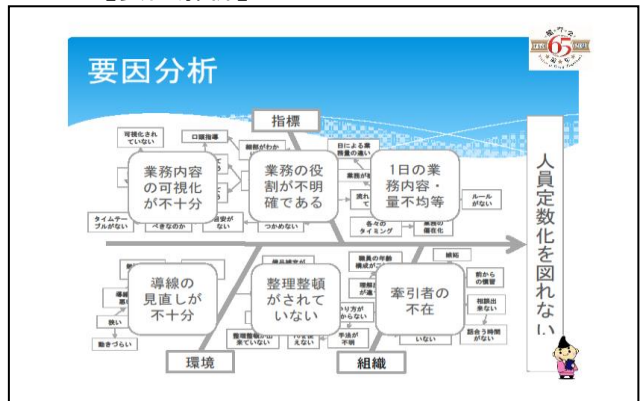


【目標設定】

目標設定

目標設定：看護助手の必要人員算出
 期限：7月10日の勤務から
 目標値：定年退職職員の補充をせずに勤務実績必要最低限の人員配置の月水金7名、火木土6名で業務をこなせるように勤怠管理していく

【要因解析】



【対策の立案と実施】

対策の検討

目標	問題点	対策案	効果
人員定数化を図る	業務内容の可視化が不十分	業務内容洗出と落込 1日のタイムテーブル作成	◎
	業務内容の役割が不明確	適正必要人員の算出 シフト制の導入	◎
	1日の業務内容・量の不均等	シフト交換の日程変更	○
	導線の見直しが不十分	患者受持ち当番制に変更	○
	整理整頓が不十分	物品庫の整理 消耗品の管理棟管理移行(配達倉)	△
	牽引者の不在	事務部門が担当する	対象外

対策の実施

なぜ	いつ	どこで	何を	どうする
① 業務を効率良くする為	5月31日	看護助手	業務内容	洗い出し 落としこみ
	6月10日	看護助手	タイムテーブル	可視化し 標準化する
② 業務の内容を標準化する為	6月17日	看護助手	シフト交換	時間がある日に 変更する
③ 無駄な動きを無くする為	6月17日	看護助手	患者受持ち 看護部	担当制にする
④ 適正な人員を決める為	6月17日	看護助手	必要人員数	算出する
⑤ 業務内容を明確化する為	6月21日	7月の勤務表	シフト制の勤務表	作成する

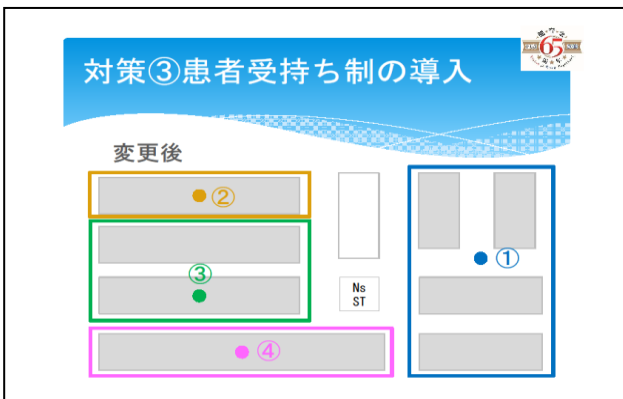
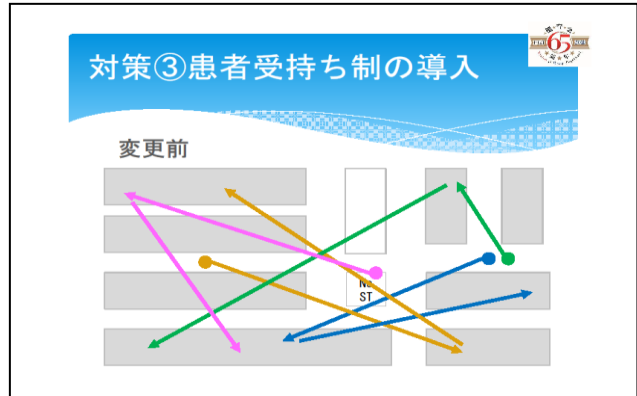
対策①タイムテーブルの可視化 (月水金/火木土 ※日勤共通業務)

時間	A	B	C	D	E
8:50	講義、朝予試	穿刺準備(ゴミ袋・針筒設置・体温計・EKGセット配布)、腫瘍内腫瘍			
9:20	体重測定	体温測定、体温測定後記入			
9:35	カルテ準備	血糖測定、腫瘍、ペアン、脈血等、カルテ用意、手洗、パッド2枚、退血用テープ貼布			
9:45	腫瘍消毒	穿刺サポート	(IF-)不足物補充	(IF-)体温測定	
10:15	朝予、腫瘍乾燥	(IF-)お茶準備、お茶配布	自動のダイライザー、穿刺セット準備		
10:40	脈血準備	回収			
11:00	腫瘍ペアン洗い			翌日の穿刺用意	
11:45	食事配膳	休憩		休憩中食の配膳	
12:00	休憩	中食片付け、後食配膳、退血準備		休憩	
13:00		体温測定		退血準備	
13:35	ダイライザー着脱、ルビスタ預試、穿刺テープ貼り、ベッドメーカーキング、穿刺サポート			食事サポート	
15:00		体温測定、EKGセット配布、ゴミ回収		下膳	
15:40	体重測定		血糖測定		ベッドメイク
16:15	腫瘍消毒	穿刺サポート片づけ		中食カップ用意	
16:45	腫瘍乾燥	翌日、穿刺セット準備		パッド等配布	
17:00		清掃		中食配膳	
17:30		終了			

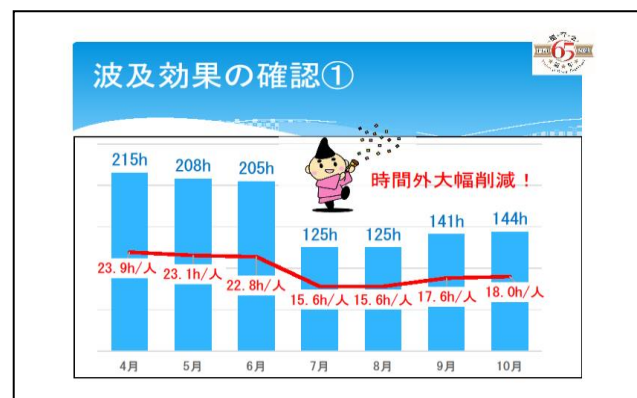
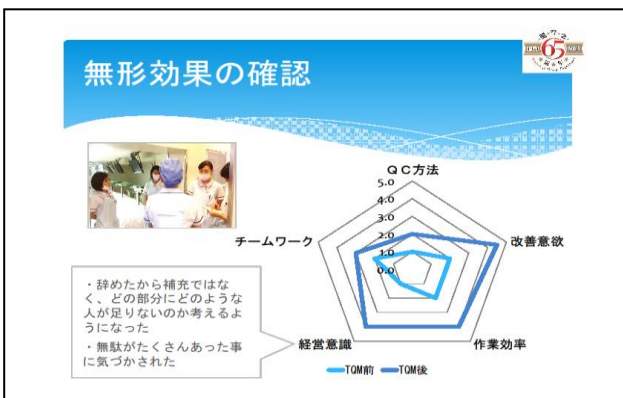
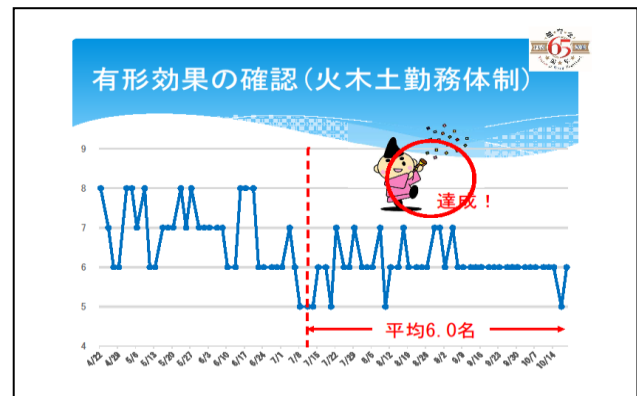
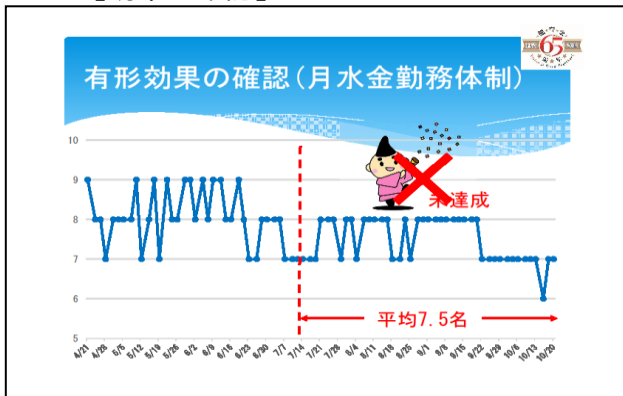
対策①タイムテーブルの可視化 ※必要人員算出

時間	月水金	火木土	時間
9:00~17:30	5名/日必要人員 ×3日/週 ×7.5h/日 ×6日/週 =225h ÷37.5h/常勤換算/週 =6名...①	7.5h/日 ×3日/週 =22.5h ÷37.5h/常勤換算/週 =0.6名×2(患者数40名) =1.2...②	8:00~16:30
14:00~22:30 (準夜勤)	7.5h/日 ×3日/週 =22.5h ÷37.5h/常勤換算/週 =0.6名×2(患者数40名) =1.2...②	7.5h/日 ×3日/週 =22.5h ÷37.5h/常勤換算/週 =0.6名×1(患者数14名) =0.6名...③	10:00~18:30 (運番)
必要人員	6.2名≒7名	5.6名≒6名	必要人員
	必要人員数	①+②+③=7.8名	8名の助手が必要

【対策の立案と実施】



【効果の確認】



【効果の確認】

波及効果の確認②

①効率化を図り、時間を短縮する事でどれだけの単価が下がるのかを算出するようになった

導入施策	削減業務	短縮時間	削減単価
シフト制導入	毎朝の仕事決め会議	5分/日	125円
シーツ交換日平準化	業務短縮	15分/日	375円

②受持ち制になった事で患者さんの状態を把握し易くなり、会話の内容が変化した

【標準化と管理の定着】

歯止めと標準化

when	Why	what	Who	how (do)
毎月	標準化	人員定数	看護助手	8名
月水金	標準化	勤務者数	看護助手	7名
火木土	標準化	勤務者数	看護助手	6名
月～金	平準化	メーカーン ベット数	看護助手	8ベッド/日
月～金	無駄な動きの削減	看護師サポート	看護助手	受持ち制
毎日	偏在化の解消	担当業務	看護助手	シフト制とし万遍なく担当

【反省と今後の進め方】

反省と今後の課題

手順	良かった点	悪かった点
テーマの選定	問題点の改善、経費削減の両面から選べた事	—
現状把握	問題点を数値、可視化出来た事	個人の都合で勤務していた事
目標の設定	実に即した目標値を定められた事	—
要因の解析	過去の慣習を取り除けた事	必要無いと考える職員がいた事
対策の検討と実施	問題点に対して、どう改善すべきか明確に出来た事	準夜勤務帯の可視化が不十分であり必要人員の算出が曖昧
効果の確認	目標以外の効果もあった事	—
標準化と管理の定着	仕組み化出来た事	—
今後の進め方	・部門別採算性(アメーバ経営)を導入し、単価から見る経営への貢献 ・患者増に伴う、夜間人員体制の増員強化	